

令和7年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立大信中学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語、数学、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教 科	全国平均 正 答 率	下回って いる	やや下回 っている	ほぼ同じ	やや上回 っている	上回って いる
国語	54.3%					○
数学	48.3%	○				
理科	503点 (I R Tスコア)				○	

※中学校理科がC B T（コンピューターテスト）により実施され、学校ごとに出題された問題が異なることから、「平均正答率」に代わり「I R Tスコア」という指標が使われるようになりました。

「I R Tスコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は500点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	48.1%					○
話すこと・聞くこと	53.2%					○
書くこと	52.8%					○
読むこと	62.3%				○	

【考 察】

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、文脈に即して正しい漢字を使えることができるかどうかをみる問題で全国平均を上回りました。さらに、「書くこと」の領域では、資料やＩＣＴ機器等を用いて、自分の考えをわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題が全国平均を上回りました。今後も、書くことや読むことの学習と関連させ、言葉の意味や類義語などの語彙力を高める学習を増やしていきます。
- 「書くこと」の問題において無解答率が低かったのは、授業の中で自分の考えを文章にまとめたり韻文創作をしたりする活動を多く取り入れた結果と考えられます。今後も継続して取り組んでいきます。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	43.5%	○				
図 形	46.5%	○				
関 数	48.2%	○				
データの活用	58.6%					○

【考 察】

- 「図形」の領域では、証明された事柄を基にして新たに辺や角についての関係を見いだし、証明の内容を振り返る問題が全国平均を下回りました。基本的な証明の流れや図形の性質を理解させ、段階的な指導を通じて論理的思考力が身につくよう継続して指導していきます。
- 「関数」の領域の、与えられたグラフから必要な情報を適切に読み取る問題や、「データの活用」の領域の、相対度数の意味を理解しているかを見る問題で、全国平均を上回りました。事象を「式」「表」「グラフ」のそれぞれで積極的に表現する場面を設定することで、相互の関係に関する理解を深め、さらに数学的に表現する力を高めていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※理科については、一部の共通問題を除き、学校ごとに出題された問題が異なり、かつ公表されている問題も全体の4割程度となっており、国語や数学のように領域別の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのか」という疑問を解決するための課題を記述する問題において、正答率が全国平均を大きく上回りました。実験方法や実験の注意点を正しく理解し、理由を表現する力が身についていると考えられます。
- 「動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する」という問題で、生命を維持する活動としての呼吸については理解できていましたが、どの生物が呼吸をするのか、しないのか判別できず、正答率が全国平均を下回りました。今後は、学習した知識と具体的な事柄等を結びつける学習活動を取り入れ、学習内容の習得に努めます。